

子どものことを考えた地域づくり

～函館地区里親会との連携～

担当教員：中村直樹 学生：角屋大貴 白鳥耀一 千田竜成 藤本瑠人
川崎雪菜 天童佳菜 村上晴菜 村上陽菜

1. 背景・概要

社会的養護の現状の中から特に里親制度に付いて学び、里親里子に対する認識の向上及び支援の充実を図る。

2. 年間スケジュール表

日付	内容
平成 29 年 10 月～12 月	・ 里親制度について調べる
平成 30 年 2 月	・ 青森市児童相談所への訪問
5 月	・ 里親会との話し合い ・ 講演会への準備開始
6 月	・ 講演会の準備 ・ 講演会の宣伝活動 ・ 里親会との最終打ち合わせ
6 月 30 日	・ 講演会の実施
7 月	・ 最終発表準備（ポスター・パワポ準備）
7 月 21 日	・ 地域プロジェクト最終発表本番

3. プロセスと成果

○青森市児童相談所への訪問

・青森市を選んだ背景としては、他都道府県の自治体における里親の現状と函館市を比較するためである。その際に近年青函の連携が強まっていることから青森市を選択した。

・訪問の中では青森市の里親の現状を知ることができた。主な内容としては、青森県民の地域性として内向的なものがあり、里親同士の交流が少ないことが課題であること。その一方で地道な里親宣伝活動によって、里親委託が全国平均を上回るほど進んでいることが明らかとなった。青函共に、地域の一般市民に対して里親を認知してもらう機会が少ないという課題が浮き彫りとなった。そこから里親への認知度向上の機会を我々でつくることを決意。それが「里親応援プロジェクト」である。

実際の訪問の様子⇒



○里親応援プロジェクトに向けての宣伝活動

- ・ SNS(Twitter)アカウントの作成、
- ・ 全道里親会 HP への掲載
- ・ 北海道新聞・函館新聞への掲載 等

Twitter アカウント



函館新聞



全道里親会 HP

「北海道教育大学函館校里親応援プロジェクト」開催のお知らせ

北海道教育大学函館校里親応援プロジェクト
 開催日:平成30年6月30日(土)
 開催時間:13時~15時半
 開催場所:北海道教育大学函館校アクティブラーニング室
 北海道函館市八幡町1-2 (Tel. 0138-44-4411)

私たち北海道教育大学函館校では、地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うために、函館校全学生の必修として開設された科目として地域プロジェクトというものがあります。私たち中村先生の地域プロジェクトでは、里親を支援するための活動を行っています。

その活動の一環として、今回「里親応援プロジェクト」と題し、平成 30 年6月30日(土)に、函館地区里親会の協力のもと、シンポジウム・ワークショップを開催します。このプロジェクトを通して、私たちは様々な方に、里親の概要や実情を知ってもらうことで、興味関心を持ってもらい、里親に対し支援をする人を増やすきっかけを作りたいことを目的としています。定員40名ぐらいを予定していますので、お早めにメールや電話でご連絡ください。

北海道新聞



○里親応援プロジェクト

日時：2018年6月30日（土）13:00~15:30

場所：アクティブラーニング室 参加人数：44名

構成：3部構成とした。第1部では、ビデオを使った里親制度そもそもの説明。第2部では、函館地区里親会の4名の里親さんたちがスピーカーとなり、シンポジウムを行った。第3部では4つの班にわかれ、「地域で里親を考える」というテーマのもとワークショップを行った。

シンポジウム・ワークショップの様子



4. 統括と反省・今後の課題

・函館地区里親会の皆様のご協力もあり、我々自身の里親に対する知識が深まっただけでなく、里親応援プロジェクトでは44名という予想を上回る人にご来場いただき、里親の認知度向上に微力ながらも貢献することができた。

・反省点としては、プロジェクト全体としての作業効率が悪く、情報発信が疎かになった点が挙げられる。

5. 地域からの評価（講演会当日アンケートより抜粋）

・子供が家庭で育つことの大切さを感じた。里親・里子も親子であり、地域で見守り、助け合っていくことが必要だと学んだ。

・現場の生きた体験を聞いて、大変勉強になった。

・自分の中でモヤモヤしていた問題がスッキリした。

・若い方々が情熱を持って関わっていることが嬉しい。

・今後も継続した里親支援をお願いしたい。等

6. おわりに

本プロジェクトを進めるにあたり、函館地区里親会の皆様には多大なるご支援、ご協力を頂きました。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。